

# 支部情報

## 長門支部

「みすゞ学園」とコミュニティ・スクールを基盤とした学校づくり

長門市は、平成十七年に旧長門市と三隅町、日置町、油谷町の一市三町が合併し、本年三月には、新市誕生十周年を迎えた。

小学校は十一校で、六つの中学校区ごとの「みすゞ学園」では、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育により、九年間というスパンの中で子どもを共に育てていくことに取り組んでいる。

小学校長会は、自主研修会を五回と本市教育委員会主催の小中校長会議の四回を合わせ、年間九回程度の関連する定例会がある。この他、各みすゞ学園内では各校の校長が連携し、学校の運営やブロックでの研修を進めている。

研修については、これまで「学校・家庭・地域・関係機関の連携による『健全な体』の育成」をテーマに掲げ、研究に取り組んだ。昨年度は、十月の山口県小学校長会秋季教育研究大会及び十一月の中国地区小学校長教育研究大会の分科会でその実践について発表した。内容については、視点を「校内の健康教育の取組の活性化」と「学校・

家庭・地域・関係機関との連携」の二点に絞り、具体的な取組として、生活習慣の改善を口指した「親子熟議」や幼・保・小・中、学校運営協議会、学校医・保健センター等の関係機関が連携して実施した「みすゞ学園学校保健安全委員会」について紹介した。

取組の成果としては、親子ともに主体的に生活習慣の改善に取り組んだことで成果につながったことや幼児期から中学生までを見通した一体感のある取組により、各校・各園での健康への意識が高まり、新たな取組を生んでいったことなどがあげられる。

これらの成果は、みすゞ学園や各校のコミュニティ・スクールでの取組が学校・家庭・地域・関係機関の連携を強化し、参画する人の協働意識の高まりがあつてこそのものである。

今後は、健康教育だけでなく、学校づくりの基盤としての成果と認識を深め、本市教育の特色である郷土の童謡詩人金子みすゞさんのまなざしや感性を大切にしながら、子どもたちを共に育んでいきたい。

(向津具小学校 堀川勝祥)



# 支部情報

# 支部情報

## 山口支部

迫る！ 全連小山口大会

山口市は教育目標として、「やまぐちで育てる 夢をもち 未来を切り拓き 世界にはばたく子ども」を掲げ、「やまぐちのまちで育てる」ことをめざしている。「やまぐちのまちで育てる」とは、教育を受けるなら山口市で受けたいと思つてもらえるまちづくりやこのまちで育てたいと思う地域への愛着と誇りを表している。

昨年度の研修は九名の研究部員が推進役となり、自主課題に基づいた年間九回にわたる研修を行った。そのうち、八月には中国警備保障の代表取締役社長 豊島貴子氏を講師に「これからの世界を生き抜く私たちの課題」と題して、子どもたちが今からの時代を生き抜くために求められる情報活用力やコミュニケーション力等の資質能力をどう育てるべきかについて学ぶことができた。十二月には山口大学教育学部教授 霜川正幸氏から「教員養成の今とこれから」山口大学の立ち位置と取組」と題して、平成二十八年度に迫っている教職

員大学の設置に関する情報を得ることができた。また、二月には教職員共済生活協同組合担当アドバイザー 岡本和子氏から「退職前に知っておきたい暮らしの話」の講話を通して、退職後の生活設計について考えることができた。

本年度は県校長会提案発表にかかわる研究課題である「リーダー研修」と自主課題を設定している。自主課題については、学力向上、危機管理、生徒指導（SSW）等があがっており、課題に応じてグループ協議を取り入れたり、講師を招聘したりしながら内容の深化充実を図ることとしている。十月の全国連合小学校長会協議会山口大会に向けて、地元支部として昨年度から準備を進めてきたところであるが、大会開催地として県本部と協力しながら、有意義な大会となるよう全力で臨む所存である。この大会自体が本年度を代表する大きな研修となること

が間違いないところである。



(大内小学校 藤村 寿)